

社会言語科学会ニュースレター

The Japanese Association of Sociolinguistic Sciences

第 9 号

2001年5月31日

発行：社会言語科学会事務局

〒214-8580 川崎市多摩区東三田 2-1-1 専修大学文学部永瀬研究室気付

Fax: 044-911-1231 E-mail: thb0308@isc.senshu-u.ac.jp

<http://www01.u-page.so-net.ne.jp/ra2/jnagase/>

《巻頭言》

謝罪をめぐる東西の風

東京女子大学現代文化学部教授
社会言語科学会理事
西原 鈴子

今年2月に起きた、米国原子力潜水艦と日本の水産高校の練習船との衝突事件は、練習船が沈没、行方不明者がまだ見つかっていないという悲劇を生んだ。非は明らかに米潜水艦にあり、米国側もそれを認めた上で対応策を検討したと思われる。その過程で気付いたのは、米国側の謝罪表明が事件後少し経過した時点で一斉に始まったということである。

米国では、事故に関する謝罪表明は、自分の過失を認め、損害賠償責任も同時に引きうける姿勢と見なされるという。したがって、めったなことでは謝らないというのが一般的な通念である。一方日本では、自分の非を認めて謝罪をすることで相手方の態度が和らぎ、補償はむしろ軽減される傾向にある。事故の後で、当該企業の代表者がまさに土下座して謝罪している姿がニュース報道されると、当然であっても、誠実な態度と受け止められる。

米国側の謝罪表明は、そのような日本の謝罪に関する慣習を視野に入れた行動として注目に値する。米国側が日本の「謝罪という発話行為」に関する「常識」を「学習」した結果であると推測さ

れるからである。翌日の新聞は、行方不明者の家族からの米国側の姿勢を評価する談話を掲載していた。

その後に起きた、米軍の偵察機と中国軍航空機との空中接触で中国機が墜落した事件でも、米国側からの謝罪表明があり、中国側は謝罪があったことを評価して米軍機の乗組員を釈放している。これも礼節を重んじる中国の慣習を「学習」した結果と捉えてよいと思われる。

相手国の慣習に配慮した対応をすることは、巧みな外交手段であるかもしれない。早めに謝罪することで、損害賠償要求の矛先を軽減しようとする密かな意図も見え隠れしないわけではない。今回の日本および中国側の反応は、米国側の思うつぼであったかもしれない。しかし、「テキもなかなかやるじゃないか」である。

言語行動に関する対照研究の成果が政治的に利用されるのは、研究者の本懐ではないが、相手を知ってそれにふさわしい待遇を行うための基礎資料としてなら、活用されることを期待してよいのではないだろうか。特に第二言語習得の分野で社会言語的能力を養うために、また、母語を異にする人々とのより良い関係構築のために、研究の成果が積極的に応用されるなら、研究し甲斐があるというものである。

(にしはら すずこ)

- 2 … 第1回徳川宗賢賞受賞者決定 ニュースレター紙面刷新のお知らせと情報募集
- 3 … 学会誌『社会言語科学』: 特集号テーマの募集・書評候補の募集・「特集・言語の対人関係機能と敬語」論文募集
社会言語科学会の理事候補者推薦臨時管理委員会からの報告
- 4 … 第8回大会のお知らせ・研究発表の募集・研究大会ワークショップ企画募集のお知らせ
- 5 … 秋の軽井沢セミナー「文系の人のための日本語コーパス作り入門」のご案内と参加者募集
2001年度会費納入のお願い

第1回 德川宗賢賞受賞者決定

2000年度の徳川宗賢賞は以下の3論文に授与されることが決定しました。

○白井純子（中京大学大学院生）、白井英俊（中京大学助教授）、浜崎なおみ、菊地隆典、木畠典子、古田嘉照、渡邊欣一（同大学院生）

＜注：2001年現在の所属：白井純子（スタンフォード大学訪問研究員）、白井英俊（中京大学助教授）、浜崎なおみ、菊地隆典、古田嘉照（同大学院生）、木畠典子（イーシーイー）、渡邊欣一（創夢）＞

「幼児の『聞き返し』—縦断的事例研究—」

(1999)『社会言語科学』1巻2号

○Lisa C. Fairbrother（千葉大学大学院生）
'Analysis of Intercultural Interaction Management within a Party Situation.' (2000)
『社会言語科学』2巻2号

○薛鳴（セツメイ）（中京学院大学助教授）
「親族名称に見られる関係表示—日本語と中国語の比較から」(2000)『社会言語科学』2巻2号

授賞式は第8回社会言語科学会研究大会（2001年9月22-23日於慶應大学）の第1日目の午後行われ、賞状と副賞十万円が各論文の著者に贈られます。なお、授賞理由はホームページに掲載しております。

「徳川宗賢賞を受賞して」と題して、3人の方に受賞の喜びを語ってもらいました。（敬称略）

○白井 純子

私たちの論文が、第一回徳川宗賢賞に選ばれ、大変名誉なことと存じます。この論文は、大人の発話に対する幼児（1才代から2才代の時期）からの能動的な反応について、それらの反応は周りの大人にどのような行為を引き起こさせるか、それらの反応は幼児の言語発達においてどのような働きをしているか、の2点を中心に縦断的な発話資料を用いて分析を行ったものです。分析結果から、幼児の側からの働きかけが、大人の応答に変化を与えると考えられること、また、それによって幼児自身の言葉の理解が促進されていると考えられることを示しました。この研究は、著者全員の参加によって、ある幼児とその母親との発話と行動の詳細な記録、書き起こしを行ったことで可能になりました。また、そのお子さんとご家族のご協力なしにはできませんでした。今後も分析を進め、幼児の言語の発達過程を報告することにより、幼児言語発達の分野に貢献したいと考えております。

○リサ フェアブラザー

徳川宗賢賞を受賞したことを見た時、大変驚きました。他の人と間違われたのではないか

と思いました。この名誉をいただけて、とても感謝しております。論文に私の名前が書いてありますが、一人だけの力では完成することはできませんでした。指導してくださったネウストブニー先生と村岡英裕先生、刺激をくださった大学院の仲間たち、そしてもちろん調査に協力してくださった方々に深く感謝しております。

調査を始めた時、論文まで書けるとは思いませんでした。ただ接触場面の行動とそれに反映されるプロセスに強く興味を持ち、調査でビデオカメラの適切さについて感心しただけでした。受賞したということは、調査で使用した方法論と分析枠組みとした管理理論の研究がある程度社会言語学の世界に認められていることも示していると思います。今後、この分野で更に頑張るための動機にもなったと思います。ありがとうございました。

○薛 鳴（セツメイ）

19年前に留学生として来日して以来、長い滞日生活は私の内的文化に大きな変化をもたらしました。それは日頃、日本語による日常生活や研究生活において、「ポジティブな欲望」が働いた結果だと言えます（『社会言語科学』最新号、3巻2号の井出先生の巻頭言に示唆を受ける）。それは単なる抵抗でもなければ、同化でもないのです。その過程で無意識に働いた「ネガティブ」な側面が、常に「？」マークを与えてくれるので、まさにその両者の出会いが問題意識を持たせてくれました。日中両国語の「親族名称」について考え始めたのも、そのお陰です。阪大で徳川先生に教えを仰ぐチャンスに恵まれたことに感謝しつつ、この論文は先生に読んでほしかった。そして、いつものようにユーモアと示唆に富んだお言葉を伺ったかった。また、本論文の作成中に、いつも迅速に対応して下さった荻野先生と多くの助言を頂いた審査委員の先生方に感謝申し上げます。

ニュースレター紙面刷新のお知らせと情報募集

次号（2001年8月発行予定）から、新しい内容を盛り込んでお伝えする予定です。どうぞ情報をお寄せください。

○博士論文一覧 本学会の趣旨に沿った分野の内容で書かれた、平成12年度の博士論文一覧を、順次、掲載する予定です。情報（論文タイトル、著者名、所属）をお寄せください。要旨・抄録は掲載いたしませんのでご了承ください。

○新刊紹介 本学会の趣旨に沿った分野の内容で書かれた、よい新刊がありましたら、1冊につき200字程度でご紹介ください（書評はお受けいたしません）。自薦・他薦は問いません。採否は当委員会にお任せください。

送付先・問合せ先 jassjig@cf6.so-net.ne.jp

社会言語科学会事業委員会

〒115-8620 東京都北区西が丘3-9-14

国立国語研究所気付

Fax: 03-3906-3530 (所内共用につき、「社会言語科学会
ニュースレター」と明記してください)

このほか、毎号一人の会員にお願いして、各人の「研究最前線」をお伝えしていく予定です。

特集号テーマの募集

『社会言語科学』では、特集号を発行しています。これまでに「日本の言語問題」(第2巻第1号),「日本語と言語接触」(第3巻第1号)の特集が実現し、現在「電子社会の言語科学」(第4巻第1号の予定)と「言語の対人関係機能と敬語」(第5巻第1号の予定)の特集が進行中です。よい特集のテーマがありましたら、学会誌編集委員会委員長までご提案ください。

書評候補の募集

『社会言語科学』では、毎号2,3本の書評を掲載してきました。よい書評候補がありましたら、学会誌編集委員会委員長までご推薦ください。

特集論文の募集のお知らせ

学会誌編集委員会では、「特集・言語の対人関係機能と敬語」の論文を募集しています。特集に投稿された論文は、通常の投稿論文と同じく、査読を経て掲載が決定されます。原稿の種類、原稿の書き方、投稿のしかた、投稿先などは、通常の論文の場合と同じです。投稿に際し、「特集」のための論文であることを明記してください。

論文投稿の締切：2001年11月30日(金) 掲載号の発行：2002年7月(第5巻第1号に掲載予定)

お問合せ先： 学会誌編集委員会委員長・岡 隆

E-mail: oka@l.u-tokyo.ac.jp ("!"は英字のエルです) Fax: 03-3815-6673

〒113-0033 文京区本郷7-3-1 東京大学文学部社会心理学研究室

特集・言語の対人関係機能と敬語

敬語問題は、日本の言語研究において古くて新しいテーマである。敬語現象は、閉じられた形式体系として見る場合、日本語や韓国語やジャワ語などの一部の言語にのみ存在する特殊な現象として捉えられる。20世紀の敬語研究の歴史を振り返ると、このような見方が主流をなしていたと言える。しかし、敬語現象を、対人関係を調節するという言語の基本的な機能の現れとして見る場合、われわれは形態上の特徴や形式体系へのこだわりから解き放たれ、一つの開かれた機能システムとして敬語現象を見直し、世界のどの言語にも存在する普遍的な現象として捉えなおすことになる。20世紀後半から、機能主義という旗印を掲げるか否かにかかわらず、このような形式より機能を重視する研究が急激に増えてきた。

そして、敬語問題へのアプローチの仕方についても、近年語彙論、形態論、文法論の枠を越え、意味論、語用論、社会言語学などの視点による考察が増えてきて

学会誌『社会言語科学』

いる。今後は、さらに言語学以外のさまざまな視点の導入が必要で、社会学、心理学、病理学、文化人類学、哲学などによるアプローチが期待される。われわれは学際的な交流を通じてさまざまな分野から多くの養分、知見を吸収し、狭義的敬語現象を含めた言語の対人関係機能の研究を一層深化させ、発展させていかなければならない。

本特集は以上のような主旨のもとで、下記のようなテーマに関する研究論文、展望論文、ショートノートの投稿を募集する。

- ・言語の対人関係機能に関する理論的考察
- ・対人関係障害と言語問題の臨床分析
- ・現代社会での敬語・ポライトネスの実態調査
- ・言語教育での敬語・対人関係機能の習得問題
- ・新しい視点による敬語の史的研究
- ・異文化接觸と敬語行動の対照研究
- ・世界諸言語に見られる敬語現象の報告
- ・敬語と倫理問題の思想論的・哲学的思索

社会言語科学会の理事候補者推薦臨時管理委員会からの報告

社会言語科学会会員各位

2001年5月25日

「理事定数改定(2001.3.3)に伴う追加理事候補者推薦の手続きに関する内規」に基づき、以下の日程で新理事の選任を行いました。

2001年4月9日 候補者推薦公告

2001年4月30日 推薦締切(当日消印有効)

開封は下記の理事候補者推薦臨時管理委員会(以下、臨時管理委員会という)において行われました。

日 時 2001年5月12日 13:00~14:00

場 所 専修大学神田校舎8B会議室

出席者 小磯花絵、備前徹、日比谷潤子、一二三朋子

臨時管理委員会は同日14:00から開催された社会言語科学会理事会に結果を提出し、理事会は会員による推薦を最大限に尊重しつつ、専攻分野、居住地域他、多様な要因を考慮して以下の新理事6名を選任しました。

新理事 加藤安彦、田中ゆかり、大坊郁夫、

伝康晴、彭国躍、野田尚史(50音順)

社会言語科学会理事候補者推薦臨時管理委員会議長

日比谷 潤子

第8回大会の研究発表及び研究大会 ワークショップ企画の申込締切が 6月15日(金)と迫ってきました。 奮ってご応募ください。

第8回大会は下記のとおり開催されます。

期日 2001年9月22日(土), 23日(日)
 場所 慶應義塾大学三田キャンパス
 所在 〒108-8345 東京都港区三田 2-15-45
 (http://www.keio.ac.jp/access.html 参照)
 交通 JR(山手線) 田町駅から徒歩約8分
 開催校・連絡先電話 03-3453-4511(代)

研究発表の募集

第8回大会の研究発表を以下の要領で募集します。

今回から口頭発表に加え、ポスター発表を設けました。ポスター発表は会員同士が直に議論や情報を交わすことのできる発表形態です。奮ってご応募をお願いします。

[発表資格] 申込の時点で社会言語科学会の会員であること(申込と同時に入会も可、連名発表の場合、筆頭発表者・口頭発表者は本学会員である必要があります)。

[発表内容] 本学会の趣旨に沿った分野の内容で未発表のもの。(社会言語学、社会心理学、社会学、心理学、コミュニケーション論、言語学、言語人類学、文化人類学、語用論、日本語教育、英語教育、情報科学、認知科学、人工知能、その他の分野で、ことばを社会や文化・認知との関係でとらえた研究)

[発表形態] (1)口頭発表(質疑応答を含め25分程度の発表時間を予定)、(2)ポスター発表(ポスター数件を集めてポスターセッションを構成します。発表者と聴衆が直接議論することができます。)

[応募要領] (1)発表題目、(2)氏名、(3)住所、(4)連絡先電話/Fax番号、(5)E-mailアドレス、(6)所属、(7)職名、(8)希望発表形態(口頭/ポスター)、(9)発表要旨1,200字程度を記載したE-mailを下記アドレスに送付してください。

なお、E-mailでの応募を原則としますが、郵送でも受け付けます。その場合、上記(1)~(9)の項目をなるべくA4用紙1枚に収めるようご記載ください。
 ※要旨の言語は日本語を原則としますが、英語でも受け付けます。

[応募先] jass-submission@mic.atr.co.jp
 〒180-0001 東京都武蔵野市吉祥寺北町4-1-27-208
 社会言語科学会研究大会委員会 阿部圭子
 Fax: 0422-55-5759

[申込締切] 2001年6月15日(金)

[予稿集] 採否の結果は7月15日までに応募者に連絡します。

発表者には(口頭発表、ポスター発表とも)、発表に先だって予稿集用の原稿の執筆をお願いします。A4サイズで6ページ以内、締切期限は8月15日の予定です。

なお、応募の採否、発表順序などについては研究大会委員会にご一任願います。発表形態(口頭あるいはポスター発表)についても応募時の希望に沿えない場合もありますので予めご了承ください。

※第7回大会では、27件の発表応募があり、そのうち24件を採択させていただきました。

研究大会ワークショップ 企画募集のお知らせ

研究大会では、これまで研究発表の他に大会企画として招待講演、シンポジウムなどを開催してきました。研究大会における会員間の交流を促進し、大会を一層実りあるものとするために、次回の研究大会でも、会員の提案に基づくワークショップの開催を計画しています。特定のテーマを設定して集中的に討論を行い、研究課題の整理・発掘、新たな研究方向の提示、異分野間の認識の擦り合わせを目標とします。

上記趣旨により、ワークショップの企画を広く会員のみなさまから募集いたします。企画提案者は以下の項目を添えて電子メールにて下記までお申し込みください。

[提案項目]

- (1) ワークショップ題目
- (2) 企画責任者の氏名、所属、連絡先
- (3) 他のワークショップ参加予定者の氏名、所属
- (4) ワークショップの企画概要(1,000字以内)

[送付先] jass-workshop@mic.atr.co.jp

郵送、Faxの場合

〒619-0288 京都府相楽郡精華町光台2-2-2

国際電気通信基礎技術研究所 片桐恭弘

Fax: 0774-95-1178

[申込締切] 2001年6月15日(金)

○ワークショップは大会期間中に研究発表とは独立に1企画あたり3時間程度での開催を予定しています。ワークショップ並列開催の可能性はありますが、研究発表とは重ならないよう設定する予定です。

○会場準備の都合上、申し込み多数の場合には、すべての開催希望に添えない場合もあります。ご了承ください。

秋の軽井沢セミナー「文系の人のための日本語コーパス作り入門」

会員、非会員を問わず、多数の皆様のご参加をお待ちしております。

日時 2001年9月10日（月）昼
～ 9月13日（木）昼 3泊4日
場所 ホテル・サイプレス軽井沢（現地集合・解散）
長野県北佐久郡軽井沢町東287-1
電話：0267-42-0011 Fax：0267-42-0989
長野新幹線「軽井沢」駅下車 徒歩10分
(<http://www.cypresshotels.co.jp/>参照)

内容

コンピュータの高速化とハードディスクなど記憶装置の大容量化にともない、大量の言語資料を電子化し、それを用いた新たな言語研究が可能となっていました。この電子化された大量の言語資料を「コーパス」と呼んでいます。

今回のセミナーは、文系の言語研究者が、こうしたコーパスを作るときに、どのような点に注意を払って研究対象とする言語資料を加工していくべきのか、たとえば、英語のように「語」の単位で切れていない日本語のデータを、どうやって一定の単位で切ればよいのか、切り出した日本語の単位にどのような情報を付与しておけば便利であるかといった、「コーパス作り」の初步的かつ実践的な話題・ノウハウを提供していこうというものです。このごろ目にする機会が増えた「コーパス」というものについて理解を深めたい、自分でも言語資料を大量に集めて言語の研究を始めてみたいという方、是非ご参加ください。

講師 加藤安彦・小椋秀樹・田中牧郎
(いずれも国立国語研究所)

定員 40名《先着順》

参加費用 (3泊宿泊費・9食食費込み)

会員：42,000円 非会員：45,000円

受付開始 2001年6月4(月) 午前9時から

(定員に達し次第、締め切らせていただきます)

申込み方法 以下の内容を記載したE-mail(郵便、Faxでも可)を下記まで送付してください。

- (1)氏名(よみがな), (2)性別, (3)住所,
- (4)連絡先電話/Fax番号, (5)E-mailアドレス,
- (6)所属, (7)職名, (8)会員/非会員の別

※郵便、Faxの場合、「お申込みの正確な日時」を必ず付記してください。なお、郵便の場合は、封筒に付記してください。

申込み・問合せ先 jassjigyo@cf6.so-net.ne.jp
社会言語科学会事業委員会

〒115-8620 東京都北区西が丘3-9-14

国立国語研究所気付

Fax: 03-3906-3530 (所内共用につき、「社会言語科学会セミナー申込み」と明記してください)

※参加の可否、参加費用の納入方法等については、定員に達した時点で、申し込みをなさった方に個別に連絡いたします。

2001年度会費納入のお願い

一般：7,000円 学生：5,000円 団体：10,000円 *ODA対象国在住の会員の会費は当分の間半額とします。

○国内会員 郵便振替口座 加入者名：社会言語科学会 番号：00210-2-87060

○海外会員 (下記の3通りのいずれかの方法でお振込ください)

①日本在住の知人に依頼して、上記の郵便振替口座に振込む

②銀行振込 振込先：東京三菱銀行(Tokyo-Mitsubishi Bank) 逗子出張所(Zushi Branch 321)

口座名：社会言語科学会(Shakai Gengo Kagakkai) 口座番号：普通 0388545

*お振込みいただいた際には、事務局までご連絡ください。

③クレジットカード(VISA, MASTER, AMEX)利用

事務局に、(1)カード名、(2)個人番号、(3)有効期限、(4)カード上の署名、をお知らせください。

ただし、E-mailでの連絡は悪用される可能性がありますので、郵送かFaxを利用されることをお勧めします。E-mailでのご連絡によって生じたトラブルについては学会は責任を負いませんので、ご注意ください。

※会員の皆さんへお願い※

○会費が未納ですと、学会誌やニュースレターの送付を受けることができませんので、早めに納入してください。

○学生会員の場合には、当該年度の身分証明書証のコピーを事務局まで送ってください。

○学会誌・名簿の返送が多くなっています。住所変更など個人情報に変更があった場合には、すみやかに事務局までご連絡をお願いします。

学校法人江副学園

URL <http://www.sng.ac.jp> MAIL office@sng.ac.jp

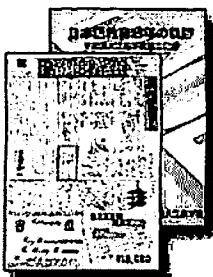
私達は若い研究者を応援します。

学校法人江副学園は、1975年に設立された新宿日本語学校が、1999年に日本語教育を目的として新たに設立した学校法人です。現在、この学校法人は新宿日本語学校（略称:SNG）とカルチャー・アンド・ランゲージ・センター日本語学校（略称:CLC日本語学校）の二つの日本語学校を経営しています。私達は、日本語教育に陽があたらなかった時代に細々と学校を運営してきました。私達なりのそうした苦労の結果迎えた学校法人設立です。公益法人となった今、若い研究者の育成のためにささやかな資金援助をすることも、それが意義がある限りは、私達の目的の一つと考えています。



「日本語教育 25 年の軌跡」（発行・新宿日本語学校）

今日、多数のアジアからの学生が来日しているのを見て、日本語教育はアジア中心にスタートしたと思われるかも知れません。しかし、私達は日本語学校を開いた1975年（昭和50年）の私達の学校は欧米の学生であふれていました。



当時は中国や韓国の学生は、特別な許可を得た人でなければパスポートを手にすることは不可能だったのです。そうした一般日本語教育が芽を出した頃の日本語学校の姿を伝える貴重な一冊です。ここには、1975年から1985年までの10年間の機関誌が縮刷版のようにして集められています。また、文部省（当時）が最初に一般日本語学校に委託した昭和58年度の委託研究の成果「ワープロを利用した日本語教授法」も掲載されています。御興味のある方は当校まで。定価2000円（税別）



学校法人江副学園

新宿日本語学校

169-0075 東京都新宿区高田馬場 2-9-7

Tel 03-5273-0044 Fax 03-5273-0018



学校法人江副学園

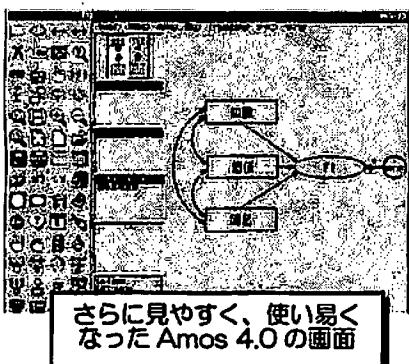
CLC日本語学校

169-0051 東京都新宿区西早稲田 3-16-13

Tel 03-5273-0753 Fax 03-5292-3180

構造方程式モデリング／共分散構造分析ツール 『AMOS 4.0 (日本語対応版)』

Amos 7.0が発売できる情報をリアルとして構築します。



さらに見やすく、使い易くなった Amos 4.0 の画面

Amos を使えば、構造方程式モデリング(SEM)/共分散構造分析を実行する過程において費やす労力と時間を節約できます。Amos を使えば、データ内の各変数間の関係を明確にするためのモデルを素早く作成します。これほど素早く、容易に構造モデルを作成する機能をもちあわせたシステムは他にはありません。その上、Amos は精度の高い推定をおこないます。

新しい方針を導入、行動選択の選択、既存のプログラムがある規定に沿ったものかを確認する場合、Amos は理想的なソフトウェアです。

- ・変数名や図表のキャプションを日本語で設定可能！
- ・グラフィックインターフェイスがますますパワーアップ。マウス操作のみで簡便なバス図を作成。
- ・クリックするだけで異なったモデルのダイアグラム(図)を交互に表示。
- ・母集団の同時分析や欠損値があるデータの分析も迅速、かつ正確に実行。
- ・SPSS データファイルは勿論、様々なファイル形式をサポートします。
 - dBASE3,4,5 / MS Excel3,4,5,8 / Lotus 1-2-3,1-2-3 Pro / MS Access / FoxPro2.0,2.5,2.6 / SPSS7.5,8.0,9.0,10.0 / テキストのファイルに対応

<動作環境> Windows 95/98/ME/NT4.0/PowerPC CPU 33MHz以上、32MBのRAM、Windows 95/98/ME/NT4.0/PowerPC 32bit OS とドライバが必須です。

大好評!! Amos推薦の言葉

Amosはグラフィックスが素晴らしい。バス図を描くことと計算することをシームレスにつないだ最初のソフトウェアという意味でAmosは構造方程式モデリングの新しい可能性を提供したバイオニアである。事実、私の周囲では、構造方程式の数理を理解した後でも、Amosの作図に没頭してしまう学生が後をたたない。テキストでモデルを特定するのと直接バス図を描くのとでは、どうやらモデルの認知の仕方が違うらしい。Amosは解説することの喜びを教えてくれる。

早稲田大学教授 教育学博士 藤田 秀樹

Amos4.0 ホームページ → <http://www.spss.co.jp/product/ALL/amos/index.htm>



エス・ピー・エス・エス株式会社 〒150-0012 東京都渋谷区広尾 1-1-39 恵比寿プライムスクエアタワー 10F
Tel:03-5466-5511(代) Fax:03-5466-5621 e-mail:jpsales@spss.com URL <http://www.spss.co.jp>